





本年は、本道が「北海道」と命名されて150年という節目の年となります。

この地に生きる私たちには、先人が積み重ねた歴史を振り返り、その偉業に感謝しながら、託された貴重な財産を受け継ぐとともに、新しい価値を創造し、未来に引き継いでいく責務があります。

また、これからの社会は、IoTやビッグデータ、人工知能をはじめとする急速な技術革新やグローバル化の一層の進展などにより、大きく変化することが予想されています。さらに、本道において進行する人口減少は、地域の教育環境の形成に大きな影響を与えています。

北海道教育委員会としては、こうした状況の中で、次代を担う子どもたちが、社会の変化に主体的に向き合いながら、自らの可能性を発揮し、未来を切り拓いていく力を身に付けることができるよう、この度、「自立」と「共生」の二つの理念を柱とし、「ふるさとを想い、グローバルな視野で共に生きる力の育成」と「学校・家庭・地域・行政の連携による、人口減少に対応するための教育環境の形成」の二つを重点とする、新しい「北海道教育推進計画（平成30年度～平成34年度）」を策定しました。

今後は、本計画に示した目標の達成に向けて、各種施策を効果的に展開し、市町村教育委員会や学校はもとより、保護者や地域の方々とも認識の共有を図りながら、一体となって取り組むとともに、北海道教育委員会の事務の管理・執行状況についての点検・評価などを通じて、進捗管理を適切に行い、計画の着実な推進に努めてまいります。

この計画を策定するに当たりまして、精力的にご審議いただいた北海道教育推進会議委員各位をはじめ、貴重なご意見をお寄せいただきました道民の皆様に、厚くお礼を申し上げます。

平成30年 3月

北海道教育委員会教育長 柴田 達夫

# 目次

<b>第1章 教育計画の策定について</b>	<b>1</b>
1 計画策定の趣旨	
2 計画の性格	
3 計画の期間	
4 計画の構成	
<b>第2章 北海道における教育の現状と課題</b>	<b>3</b>
1 社会状況の変化	4
2 本道の子どもたちの現状	7
<b>第3章 北海道が目指す教育の基本理念と目標</b>	<b>13</b>
1 基本理念	14
2 目標の考え方	14
<b>第4章 施策項目と重点</b>	<b>19</b>
<b>1 施策項目の構成</b>	<b>20</b>
<b>目標1 社会で生きる力の育成</b>	
1-1 義務教育における確かな学力の育成	22
1-2 これからの時代に求められる資質・能力の育成（高校）	24
2 特別支援教育の充実	26
3 国際理解教育の充実	28
4 理数教育の充実	30
5 情報教育の充実	32
6 キャリア教育の充実	34
7 産業教育の充実	36
<b>目標2 豊かな人間性の育成</b>	
8 道徳教育の充実	38
9 ふるさと教育の充実	40
10 読書活動の推進	42
11 体験活動の推進	44
12 コミュニケーション能力の育成	46
13 いじめの防止や不登校児童生徒への支援の取組の充実	48
<b>目標3 健やかな体の育成</b>	
14 体力・運動能力の向上	50
15 食育の推進	52
16 健康教育の充実	54

#### 目標4 学びを支える家庭・地域との連携・協働の推進

17	家庭教育支援の充実	56
18	幼児教育の充実	58
19	学校と地域の連携・協働の推進	60
20	学びのセーフティネットの構築	62

#### 目標5 学びをつなぐ学校づくりの実現

21	学校段階間の連携・接続の推進	64
22	本道の地域特性等を踏まえた特色ある高校づくり	66
23	学校施設・設備の充実	68
24	教員の養成・採用・研修の一体的な改革の推進	70
25	学校運営の改善	72
26	学校安全教育の充実	74

#### 目標6 学びを活かす地域社会の実現

27	生涯学習の振興	76
28	社会教育の振興	78
29	芸術文化活動の推進	80
30	文化財の保存及び活用の推進	82

## 2 重点の考え方 84

・ 重点 1	85
・ 重点 2	86

## 第5章 計画の推進 87

1	開かれた教育行政の推進	88
2	国、市町村など関係機関との連携・協力の推進	89

## 資料編 91

・ 用語解説	92
・ 北海道教育推進計画策定経過	99
・ 北海道教育推進会議条例	100
・ 北海道教育推進会議委員名簿	101